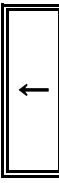


# CASBEE® 広島

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版

使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

## 評価結果



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新広島郵便処理施設(仮称)新築工	階数	地上4F
建設地	広島市佐伯区五日市町	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、西風新都石内東	平均居住人員	587 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2015年9月10日
敷地面積	37,178 m <sup>2</sup>	作成者	栗栖 一彰
建築面積	11,195 m <sup>2</sup>	確認日	2015年4月1日
延床面積	23,448 m <sup>2</sup>	確認者	振木 真紀



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	184
②建築物の取組み	138
③上記+②以外の	92
④上記+	46

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 1  
LR2 資源・マテリアル: 2  
LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.4**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

音環境	1.8
温熱環境	2.5
光・視環境	3.1
空気質環境	2.7

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	2.9
耐用性	3.6
対応性	3.6

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.5

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	1.5

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.7
効率的	3.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.0

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	3.8
地域環境	3.3
周辺環境	3.2

### 3 広島市の重点項目

**重点項目の総平均スコア = 3.2**

「地球温暖化対策」の推進	「ヒートアイランド対策」の推進	「長寿命化対策」の推進
スコア = 3.7	スコア = 1.8	スコア = 3.3
<b>設計の計画上特段に配慮した事項</b> 外皮の熱負荷抑制によりBPIを低く計画。/特に配慮なし。/高効率化によりBEI値を低く計画。//節水コマ等により水資源保護を実施。/排出率を一般建物程度抑制した。	<b>設計の計画上特段に配慮した事項</b> -/駐車場を十分な量確保した。	<b>設計の計画上特段に配慮した事項</b> 空調機器やダクト等の更新必要期間に配慮した。耐震性にも配慮した。/-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される